

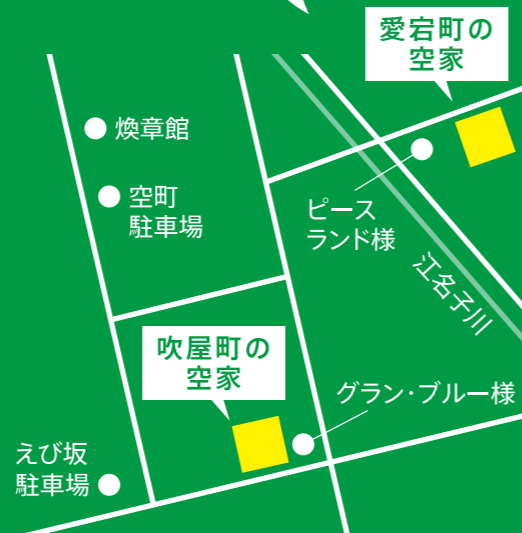
愛宕町の空家



吹屋町の空家



題材となった
空家の所在地



空家について、考えてみませんか。

この高山空家活用コンテストで提案されたアイデアが、

題材となった2つの空家で実現すること、

また、市内にある他の空家にも波及することを期待しております。

ひとりでも多くの方が、空家問題について感心を持っていただければと思います。

また、いろんな活用方法の提案をしていただきました。

空家を所有している方々の心に響く提案があり、

ひとつでも多くの空家の活用につながれば幸いです。

高山空家活用コンテスト実行委員会

事務局：高山市役所 建築住宅課

〒506-8555 高山市花岡町2-18

TEL.0577-35-3176(直通) FAX.0577-35-3168

E-mail: ken-j@city.takayama.lg.jp

あなたが

お持ちの

気になる

住みたい

空家

有効活用しませんか？

何かが動きはじめる予感！

まちのちょっと気になる空家空間

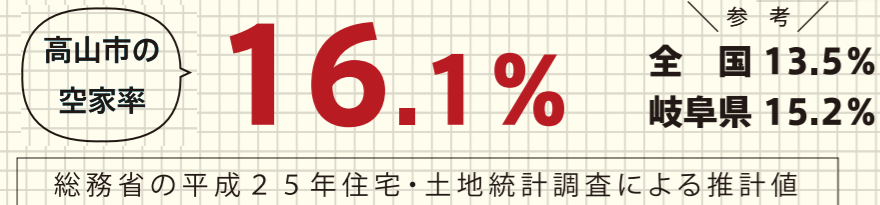
第1回(平成30年度)

高山空家活用コンテスト

2018年11月～翌年2月にかけて、高山市に実在する2つの空家の
利用・活用方法(アイデア)を募集し、空家活用を目的としたコンテストを開催しました。

近年、高山市の空家が増加し 深刻な問題になっています。

近年、適切に管理されていない空家等が、安全・防災や防犯、衛生、景観など地域住民の生活環境に深刻な影響を及ぼす事例が全国的に増加し、大きな社会問題となっています。



高山市の空家率は高い傾向となっており、今後、人口減少などに伴い、ますます上昇すると推測されます。

空家問題の取り組みとして、空家の利用・活用方法のアイデアの提案をしていただく「高山空家活用コンテスト」を企画しました。

コンテストの目的

- 空家の新たな活用方法の提案、発信を行うことで空家の活用を促進する
- 市民の方々の、空家問題に関する意識を高める
- 空家活用を通じて地域特性に応じたまちづくりの機運を高め、地域活力の向上する
- 提案内容をアピールすることで、市内にある空家の解消につなげる
- 負の資産となっている空家を、魅力ある正の財産とする

コンテストの開催にあたり、金融・不動産・建築関係と様々な分野のメンバーで組織する実行委員会を立ち上げ、実行委員会を中心にコンテストを企画しました。空家所有者の方にご協力いただいた愛宕町と吹屋町にある築100年を超える2つの古民家を、コンテストの題材空家とすることを実行委員会で決定しました。この空家がある空町地域は、かつて高山城があった城山公園や高山別院、東山寺院群などがあり歴史的な地域です。高山城に住む領主を守るように家臣の屋敷群が空町に置かれました。現在でも旧市街地の風情を残す町並みとなっています。

コンテストのスケジュール



コンテストのスケジュールは、エントリー期間を平成30年11月15日～平成31年2月8日に、作品提出期間を平成30年11月15日～平成31年2月15日に、題材物件の見学会を平成30年12月7日・12月9日・平成31年1月20日・2月8日に開催。公開審査会は平成31年2月23日、高山市民文化会館講堂にて開催いたしました。(一般来場者80人、応募者22人、関係者17人 合計119人参加)



アドバイザー
名畑 恵さん
アドバイザー
三矢 勝司さん

審査会の流れ

- 1 提案者からのアピールタイム(1次審査)**
提案者(22名)は、審査員・来場者に対し、提案内容について自由にアピール。審査員(4名)・来場者(約80名)は良かったと思う提案に投票。
- 2 提案者からのプレゼンテーション(2次審査)**
1次審査を通過した10名の提案者が、大型スクリーンを使用しプレゼンテーションを行った。プレゼンテーションを聞き、審査員による採点と来場者は良かったと思う提案に投票。
- 3 トークセッション(最終審査)**
審査員・アドバイザーから、提案者に対し質問。トークセッション終了後、審査員は2次審査で審査したものを修正。来場者の投票と合わせ、最終的な順位を決定した。
- 4 結果発表・表彰**
- 5 コンテストまとめ**



最優秀作品

22点のアイデアの中から以下2点の作品が最優秀賞に決定しました

優秀賞
・柴田 ゆき乃
・山の日展2019
実行委員会
・洞口 航
特別賞
・NPO法人すえひろ

最優秀賞

飛驒の若者のDream House

鈴木 日菜子 (高山市在住、斐太高校3年生)



『飛驒の若者のDream House』と題した本作は、学生の学習スペースというシンプルな用途提案でありながら、本来目的は地元の企業と地元の学生をつなぐための、企業宣伝や企業アンケートなどのしかけを施し、結果的に施設活用を通じて飛驒に就職する若者を増やすことが狙い。整備・運営費も広告費等企業提供でまかなおうというもの。パネル提案は簡素であったが、プレゼン力は秀逸で皆が圧倒された。



最優秀賞

空き家ならい、

白田 江美 (県内在住、8人グループ研究出品)



『空き家ならい』のネーミングを高山発で全国に流行させたいと提案。「空家」に「き」を入れることで生き返らせる。「空き家でならい事」をする意味と、「空き家ならい」と空き家をポジティブに捉えようという発想。県内在住の異業種の8人組が、高山に赴き、この地域で何を展開すべきかと思案した。この地域に住む人々が外国人など観光客に対して、習い事を行う場にリノベーションする。習いごとを通じて、地域の人の生きがいがづくりと、新たな観光フレームとなるビジネスとをマッチングさせたもの。

